226 北九州市における室内塵ダニ類、特にホコリダニ出現の季節的推移

○小松雄幸(北九州市)・真喜屋清(産医大・医動物)・高岡正敏(埼玉県衛研)

Seasonal change in abundance of house dust mites, especially of *Tarsonemus* in Kitakyushu City

Komatsu Y., Makiya K. and Takaoka M.

ナイロンメッシュで室内塵ダニ類を簡便に捕集する濾過法を用いることによって大・中型種だけでなく、ホコリダニのような微小なダニや卵も効率よく捕集された。室内塵を200メッシュ標準篩を通過しない細塵と通過する微細塵とに分け、従来の濾紙展開法とナイロンメッシュ300 μ 、48 μ による濾過法とでダニ相を比較した。5-11月の期間に北九州市の1家屋において両法で確認されたダニは約5,400匹を数えたが、ホコリダニ科 *Tarsonemus* 属が51%と最も多く、次いでチリダニ科 *Dermatophagoides* spp. が19%、ニクダニ科 *Chortoglyphus* sp. が18%、以下ヘソイレコダニ科、ツメダニ科などと続いた。ホコリダニは約70%以上が微細塵から見つかることから、頻用される200メッシュ(75 μ)篩を容易に通過することが明らかにされた。チリダニ科・ニクダニ科・ホコリダニ科・ツメダニ科とも夏以降の後半期に多く、特にササラダニ類では9月以降に著しいピークを示した。

227 高知市における室内塵ダニ類の季節的消長(Ⅱ)

松崎沙和子・○内田里穂・吉村志保(高知女子大・生活生物)

Seasonal fluctuation of house dust mites in Kochi (Ⅱ)

Matsuzaki S., Uchida R., Yosimura S.

高知県下の室内塵中のダニ類について、1980年より初期は県下全域の代表的な住宅について幅広く、また、近年は使用目的の異なる旅館、大学内の和室、マンション、一般木造住宅、コンクリート住宅などにおいて建築後の経過時間などの異なる環境条件下での種類相と発生の季節的消長の特異性を検討してきた。特に'93、'94年は不特定多数の人が出入りする興行場(県民文化ホール)とそれに対照的な学生が一人生活するマンションと標準的な木造住宅において室内塵を採集して、過去の例と比較しながら高知のダニ発生の特性を明らかにしてきた。特に、コナヒョウヒダニは、越冬した若虫が春先成虫に発育して初夏に産卵し、孵化幼虫は夏期を経て、秋期に若虫になり越冬に入る年間1世代の発生であることが知られた。春期に成熟した成虫は、初冬に死亡する個体がほとんどである。'95はこの調査を継続して、これらの傾向の確認に努めた。